

現代大学生のもつ身体観 — 臓器移植・身体装飾・性への意識 —

松浪 稔^{*1}

The Body Image of University Student — Opinions about Organ Transplantation, Body Decoration and Sex —

by

Minoru Matsunami

Abstract

This study is to clarify the university students' opinions about Organ Transplantation, Body Decoration and Sex. 271 students' opinions were researched by questionnaire method. The Main Results is following.

1. The majority of students have affirmative opinion about Organ Donation.
2. 92.5% of students have affirmative opinion about hair dye.
3. 84.4% of students have affirmative opinion about piercing.
4. 50.3% of students have affirmative opinion about tatto.
5. The average age when students began to have interested in sex is 12.8 years old (male) and 14.2 years old (female).

I はじめに

現代スポーツの現場では、陸上のスパイクや水泳の水着など勝利や記録達成のためには、最新技術によって作り上げられたハイテクスポーツ用具が必要不可欠である。ハイテクスポーツ用具が身体の一部になっているのである¹⁾。

さらに、スマートフォンをはじめインターネット環境に常時接続、記憶媒体もネット上のクラウ

ドへ、という時代を迎えている。情報や知識を得るために、実際に身体を動かし図書館や博物館に行くのではなく、瞬時にインターネット上の情報を収集できる環境にある。われわれは生身の身体の外側に記憶媒体を持つことが可能になりそれが当たり前になったのである。

つまり生身の身体の外側に我々の身体能力は拡張しているのである。

このような身体の境界があいまい²⁾な現代社会

* 1 東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科

において、我々の身体を規定することは大変困難な作業だといえるだろう（生身の身体の外側に存在する記憶媒体でありコミュニケーションツールであるケータイなしでは落ち着かないという学生も多いのではないだろうか）。

我々の身体は現在どのようにとらえられているのか、どうあるべきなのか、理想とすべき身体とはいかなる身体か。このような「身体へのまなざし」を身体観という言葉であらわしたい。

これまでに大学生の身体観を明らかにした研究はわずかであり、松浪健四郎、荒木祐治の研究が嚆矢であろう³⁾。しかし、この研究は今から約30年前に行われたものである。そこで本研究では、松浪健四郎、荒木に倣い、現代大学生の身体観を明らかにすることを試みたい。

本稿は、現代大学生の身体観を臓器移植・身体装飾・性への意識などの視点から明らかにすることを目的とする。これらの視点より現代大学生の身体観を明らかにするためにアンケート（質問紙）調査を行った⁴⁾。本研究で行った調査の一部は、現代大学生と約30年前の大学生の身体観を比較することを可能にするため、松浪健四郎、荒木が行った調査と同じ質問とした。

Ⅱ 調査対象(性別・年齢・身長・体重など)

アンケート調査はT大学学生を対象とし、調査者が担当する授業の受講者271人（男性186人、女性85人）に無記名でおこなった。

最年少は18歳、最年長は26歳（男性平均年齢19.7歳、女性平均年齢19.4歳）。男性の平均身長は173.1cm、平均体重は68.6kg。女性の平均身長は159.6cm、平均体重は54.0kgだった⁵⁾。

理想とする身長、体重をたずねたところ、男性の理想とする身長の平均は178.5cm（5.4cm高）、体重の平均は73.3kg（4.7kg増）、女性の理想とする身長の平均は161.7cm（2.1cm高）、理想とする体重の平均は49.6kg（4.4kg減）だった。平均でみると、男性はおおむね現状よりも高い身長、大きい体重を理想としており、女性はおおむね若干高い身長、小さい体重を理想としているようである。

なお、本稿では回収したデータを単純集計した

結果のみを報告する。

Ⅲ 臓器移植に対する意識

臓器移植とは、働きが失われた臓器（あるいは、そのままでは近い将来働きが失われるであろう臓器）のかわりに、他の人からその臓器の提供を受け移植することにより、その臓器の機能を取り戻そうという医療である。医療技術の進歩が生み出した治療法といえよう。

東洋医学では「心身一如（心と体は一体である）」という思想があるが、臓器移植はそれとは逆に人間の身体を取り換え可能な部品の集合とみなす考え方であるにとらえることも可能である。

1997年10月に臓器の移植に関する法律が施行され、脳死後の臓器移植が可能になった。さらに医療技術や免疫抑制薬などの医療用医薬品が進歩したことで、以前よりも移植できる臓器が増え、移植の成績も向上してきた。しかし、日本では、脳死後の移植が欧米諸国に比べて少なく、また移植を希望する人の数に比べて、実際に移植が行われる人の数が少ないのが現状である。現在、約13,000人（2012年7月31日時点）⁶⁾が、脳死・心停止後の臓器移植を希望し、日本臓器移植ネットワークに登録している^{7,8)}。

そこで、現代大学生の臓器移植への関心について調査した。

1. 臓器移植への関心

臓器移植については、内閣府（旧総理府）が臓器移植に関するアンケートを臓器移植法施行後の平成10年10月と平成12年5月、平成14年7月、平成16年8月、平成18年11月、平成20年9月に行い、国民の臓器移植に対する意識を比較している⁹⁾。そこでこの調査を参考にした¹⁰⁾。

臓器移植についての関心の有無を調査するため「臓器移植について関心があるか」聞いたところ、「ある86人（31.7%）」「ない96人（35.4%）」「わからない89人（32.8%）」の回答を得た（有効回答数271）（図1）。「関心がある」と答えた者に関心を持った理由を聞いたところ（複数回答）、「テレビやラジオで話題になったから58人（67.4%）」「新聞雑誌で話題になっているから21

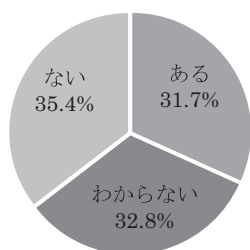


図1 T大学生の臓器移植への関心

人(24.4%)」「学校での会話で話題になったから10人(11.6%)」「家庭での話題になったから7人(8.1%)」「身近に臓器移植者(または臓器提供者)がいるから4人(4.7%)」「その他9人(10.5%)」との回答を得た。

平成20年9月の内閣府の調査では、臓器移植についての関心の有無は「ある」か「ない」の二者択一であった。20～29歳では「関心がある(58.4%)」「関心がない(41.6%)」だった。関心を持った理由は「テレビやラジオで話題になったから(70.0%)」「新聞雑誌で話題になっているから(53.6%)」「学校での会話で話題になったから(9.2%)」「家庭での話題になったから(12.4%)」「身近に臓器移植者(または臓器提供者)がいるから(10.2%)」である。

臓器移植への関心について「わからない」と回答したものをどのようにとらえるのかが問題ではあるが、内閣府の調査と比較した場合、T大学生は臓器移植への関心が低いのではないだろうか。

2. 臓器提供の意思

「脳死と判定された場合、臓器(心臓や肝臓など)を提供したいか」聞いたところ、「提供したい94人(34.9%)」「どちらかといえば提供したい71人(26.4%)」「どちらかといえば提供したくない32人(11.9%)」「提供したくない20人(7.4%)」「わからない52人(19.3%)」の回答を得た(有効回答数269)(図2)。「提供したい」「どちらかといえば提供したい」の合計は165人(61.3%)、「提供したくない」「どちらかといえば提供したくない」の合計は52人(19.3%)であ

り、「提供したい」という回答が大幅に「提供したくない」を上回った。

「心臓が停止し、死亡と判断された場合、臓器(腎臓や眼球など)を提供したいか」聞いたところ、「提供したい99人(37.2%)」「どちらかといえば提供したい75人(28.2%)」「どちらかといえば提供したくない29人(10.9%)」「提供したくない20人(7.5%)」「わからない43人(16.2%)」の回答を得た(有効回答数266)(図3)。「提供したい」「どちらかといえば提供したい」の合計は174人(65.4%)、「提供したくない」「どちらかといえば提供したくない」の合計は49人(18.4%)であり、この質問でも「提供したい」という回答が大幅に「提供したくない」を上回った。

平成20年の内閣府の調査(20歳から29歳)では、脳死判定後の臓器提供の本人意思を聞いたところ「提供したい」とする者の割合が58.4%(「提供したい」31.1%+「どちらかといえば提供

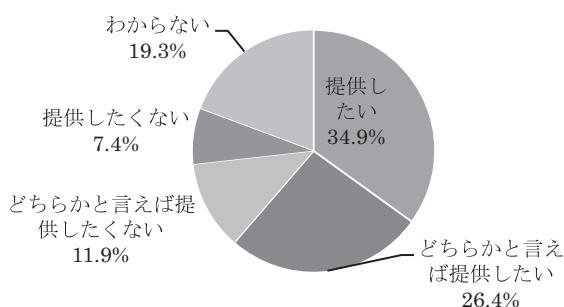


図2 脳死と判定された場合臓器を提供したいか(T大学生)

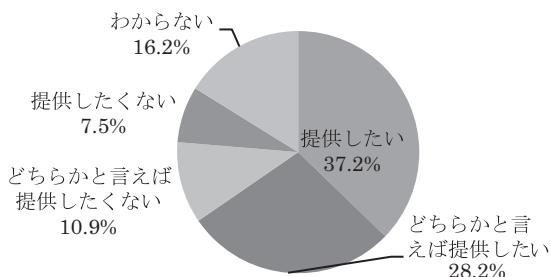


図3 心停止し死亡と判断された場合臓器を提供したいか(T大学生)

したい」27.3%),「どちらともいえない」「わからない」と答えた者の割合が26.0%,「提供したくない」とする者の割合が15.5% (「どちらかといえば提供したくない」6.2%+「提供したくない」9.3%)となっている。また、同様に心臓停止後の臓器提供に対する本人意思を聞いたところ、「提供したい」とする者の割合が56.5% (「提供したい」27.3%+「どちらかといえば提供したい」29.2%),「どちらともいえない」「わからない」と答えた者の割合が25.4%,「提供したくない」とする者の割合が18.0% (「どちらかといえば提供したくない」9.3%+「提供したくない」8.7%)となっている。

T大学学生の臓器移植についての関心は、内閣府調査と比して低いと考えられるが、臓器を提供したいと考えている者の割合は若干高いことがわかる。

Ⅳ．身体装飾への意識

身体装飾の一つとして、髪の毛を自然な色ではない色に染める習慣(染髪)は、古来様々な文化圏で行われてきた。現在では、茶髪(ちゃぱつ)は一般学生のファッションと定着しているといってもよいだろう。また同様に、ピアスやTattoo(刺青)のような身体変工も、現代学生の身体装飾のひとつとしてとらえられるようになっているのかもしれない。そこでT大学生を対象に染髪、ピアス、Tattooについての意識を調査した。

1. 染髪

「大学生が髪の毛を染めることは許されると思いますか」と聞いたところ、「絶対許されない5人(1.9%)」「少しならかまわない72人(26.8%)」「どのような色に染めようと許される177人(65.8%)」「わからない15人(5.6%)」との回答だった(有効回答数269)(図4)。249人(92.6%)の学生が髪の毛を染めることに肯定的な意見を持っていることがわかる。

また、髪の毛を染めることについては(複数回答 有効回答数270)「似合っていればいい194人(71.9%)」「私は髪の毛を染めている79人(29.3%)」「自分の身体だから何をしてもいい54人(20.0%)」「機会があればやってみたい47人(17.4%)」「カッコいい34人(12.6%)」「染めないほうがカッコいい29人(10.7%)」「親からいただいた身体に手を加えるべきでない6人(2.2%)」「興味がない50人(18.5%)」「その他10人(3.7%)」の回答を得た。

2. ピアス

「大学生がピアスを開けることは許されると思いますか」と聞いたところ、「絶対許されない5人(1.8%)」「少しならかまわない106人(39.4%)」「どのようなピアスでも許される121人(45.0%)」「わからない37人(13.8%)」との回答だった(有効回答数269)(図5)。227人(84.4%)の学生がピアス穴を開けることに肯定

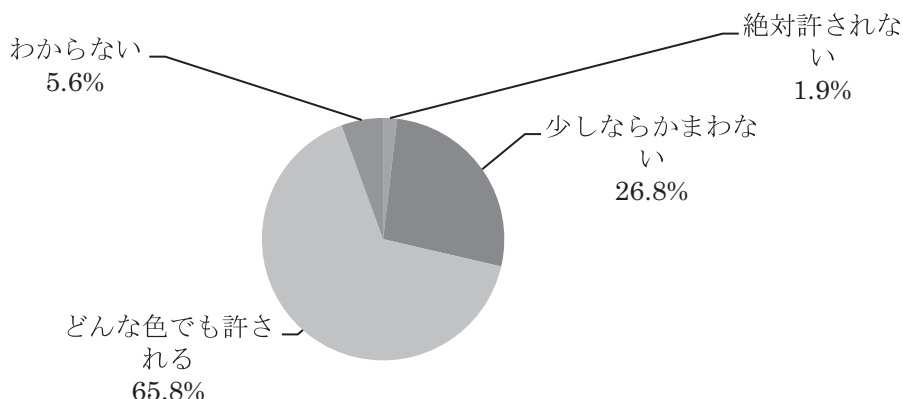


図4 大学生の染髪

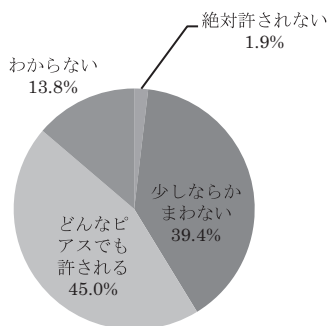


図5 大学生のピアス

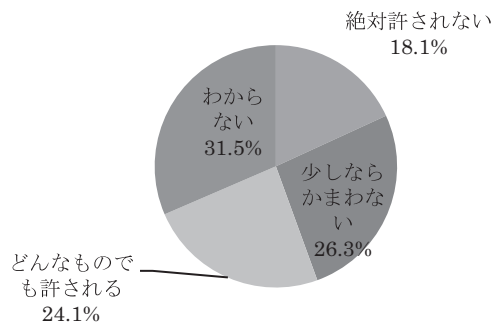


図6 Tattoo (刺青)

的な意見を持っていることがわかる。

また、ピアスを開けることについては(複数回答 有効回答数 269),「似合っていればいい 115 人 (42.8%)」「すでにピアスを開けている 48 人 (17.8%)」「自分の身体だから何をしてもいい 42 人 (15.6%)」「機会があればやってみたい 39 人 (14.5%)」「場所によっては開けてもよい 32 人 (11.9%)」「かっこいい 28 人 (10.4%)」「片耳にひとつ以上のピアス穴をあけている 24 人 (8.9%)」「親からいただいた身体に手を加えるべきでない 23 人 (8.6%)」「ピアスを開けないほうがかっこいい 21 人 (7.8%)」「耳たぶに限らず、ほかの部分にもピアスを開けている 6 人 (2.2%)」「興味がない 103 人 (38.2%)」「その他 12 人 (4.5%)」の回答を得た。女子に限ってみれば、ピアスを開けている女子学生は 33 人 (38.8%) である。

3. Tattoo (刺青)

「身体への Tattoo (刺青いれずみ) についてどう思いますか」と聞いたところ、「絶対許されない 49 人 (18.1%)」「少なからずかわらない 71 人 (26.3%)」「どのようなものであれ許される 65 人 (24.1%)」「わからない 85 人 (31.5%)」との回答だった(有効回答数 270)(図 6)。136 人 (50.4%) が Tattoo について肯定的な意見を持っていると考えてよい。

また、Tattoo (刺青) について(複数回答 有効回答数 270),「似合っていればいい 50 人 (18.5%)」「親からいただいた身体に手を加える

べきでない 37 人 (13.7%)」「自分の身体だから何をしてもいい 27 人 (10.0%)」「Tattoo はかっこわるい 26 人 (9.6%)」「場所によってはいれてもよい 25 人 (9.3%)」「かっこいい 23 人 (8.5%)」「機会があればやってみたい 16 人 (5.9%)」「すでに Tattoo をいれている 3 人 (1.1%)」「興味がない 174 人 (64.4%)」「その他 9 人 (3.3%)」との回答を得た。「すでに Tattoo をいれている」と回答したのはすべて男性だった。

V. 性への意識

日本の人口は 2005 年に戦後初の減少を示し、2008 年以降日本は人口減少社会に転じたといわれている¹¹⁾。また、2011 年の合計特殊出生率は 1.39 で低い水準を維持しており、出生数も減少した。出産数が多い 30~34 歳層の人口は急速に減少に向かっており、好転は難しいとみられている¹²⁾。現代社会では多様な価値観が認められるとはいえ、人口の減少は今後の我が国の未来にかかわる重大な問題といえよう。

そこで、新たな生の誕生につながる性への意識および理想とする異性像についての意識を調査した。なお性への意識については、約 30 年前に松浪健四郎、荒木によって実施された調査(以下、「30 年前調査」とする)と結果を比較するために、ほぼ同じ質問とした。

1. 性への関心

「あなたは性的なことに関心がありますか」と聞いたところ、「大変関心がある 69 人 (25.6%)

(男 65 人 (35.0%) 女 4 人 (4.8%))」「常識程度に関心がある 162 人 (60.0%) (男 112 人 (60.2%) 女 50 人 (59.5%))」「あまり関心がない 19 人 (7.0%) (男 3 人 (1.6%) 女 16 人 (19.0%))」「わからない 20 人 (7.4%) (男 6 人 (3.2%) 女 14 人 (16.7%))」との回答だった (有効回答数 270 (男 186 人 女 84 人))。

「30 年前調査」では、「大変関心がある (男 35.8% 女 8.0%)」「常識程度に関心がある (男 60.1% 女 86.2%)」「あまり関心がない (男 1.4% 女 3.6%)」「わからない (男 2.7% 女 2.2%)」との回答であった。現代大学生の方が性に関心がないと回答する学生が多いようである。

「性的なことに関心を持つようになったのは何歳ごろですか」の質問では、4 歳 1 人、5 歳 2 人、6 歳 2 人、7 歳 1 人、8 歳 0 人、9 歳 4 人、10 歳 22 人、11 歳 7 人、12 歳 52 人、13 歳 40 人、14 歳 43 人、15 歳 51 人、16 歳 18 人、17 歳 5 人、18 歳 5 人、19 歳 1 人の回答があった。回答があった年齢の平均は 13.2 歳である。12 歳、15 歳との回答がそれぞれ 52 人、51 人であり、おおよそ、12 歳から 15 歳ごろに性的なことに関心を持つようになることが多いようだ。男性では平均 12.8 歳、女性平均 14.2 歳であった。

12 歳以下に性的なことに関心を持つようになった割合は男性 43.1% 女性 17.8%，以下 13 歳ごろ男性 16.6% 女性 13.7%，14 歳ごろ男性 15.5% 女性 20.5%，15 歳ごろ男性 18.2% 女性 24.7%，16 歳ごろ男性 5.5% 女性 11.0%，17 歳ごろ女性 6.8%，18 歳ごろ男性 1.1% 女性 4.1%，19 歳ごろ女性 1.4% だった (有効回答数男 181 女 73)。

「30 年前調査」では、12 歳以下に性的な関心を持つようになった割合は男性 25.0% 女性 5.6%，13 歳ごろ男性 29.4% 女性 22.6%，14 歳ごろ男性 18.3% 女性 23.6%，15 歳ごろ男性 15.4% 女性 19.5%，16 歳ごろ男性 7.5% 女性 17.5%，17 歳ごろ女性 6.6%，18 歳ごろ女性 2.9%，19 歳以上女性 1.4% だった。

現代大学生は「30 年前調査」に比して 12 歳以下で性に関心を持ち始めた学生の割合が増加しているといえよう。

「性についてどのように感じていますか」との

問いでは、「いやらしくてはずかしい 33 人 (12.6%) (男 15 人 (8.2%) 女 18 人 (23.1%))」「ごく自然な気持ちで話せる 168 人 (64.1%) (男 121 人 (65.8%) 女 47 人 (60.3%))」「性は人間の生き方につながる所以強い関心を持っている 41 人 (15.6%) (男 31 人 (16.8%) 女 10 人 (12.8%))」「性は人間の子孫を残すので強い関心を持っている 20 人 (7.6%) (男 17 人 (9.2%) 女 3 人 (3.8%))」との回答を得た (有効回答数 262 (男 184 女 78))。

同じ質問の「30 年前調査」の結果は、「いやらしくてはずかしい男 5.5% 女 4.5%」「ごく自然な気持ちで話せる男 59.8% 女 60.8%」「性は人間の生き方につながる所以強い関心を持っている男 26.4% 女 12.4%」「性は人間の子孫を残すので強い関心を持っている男 26.4% 女 3.0%」だった。現代の方が性について「はずかしい」と感じる学生の割合が高い。

2. 性に関する知識の入手

「あなたは性的なことにに関する知識をどこから入手しましたか」との問いでは、「友人・先輩 198 人 (74.4%) (女 60 人 (73.1%))」「インターネット 115 人 (43.2%) (女 15 人 (18.3%))」「映画・テレビ・新聞など 102 人 (37.9%) (女 33 人 (40.2%))」「週刊誌などの雑誌 82 人 (30.8%) (女 16 人 (19.5%))」「学校の先生 66 人 (24.8%) (女 28 人 (34.1%))」「兄弟姉妹 11 人 (4.1%) (女 5 人 (6.1%))」「母親 11 人 (4.1%) (女 8 人 (9.8%))」「専門書 8 人 (3.0%) (女 1 人 (1.2%))」「父親 3 人 (1.1%) (女 2 人 (2.4%))」「医者 2 人 (0.8%) (女 1 人 (1.2%))」「その他 5 人 (1.9%) (女 0 人)」との回答を得た (複数回答 有効回答数 266 (うち女 82))。

同じ質問に対して、「30 年前調査」の女性の回答は「友人・先輩 57.8%」「週刊誌などの雑誌 29.4%」「映画・テレビ・新聞など 17.3%」「学校の先生 10.7%」「母親 2.9%」「専門書 2.6%」「医者 0.6%」「兄弟姉妹 0.4%」「父親 0%」「その他 0.9%」であった。

性に関する知識は「友人や先輩」から得ること

が多く、その割合は現代の大学生の方が高い。また、30年前にはなかった「インターネット」も情報源となっている。30年前は「映画・テレビ・新聞」が「週刊誌のなどの雑誌」よりも情報源としての割合が高かったが、現代では逆転している。また「学校の先生」から性に関する知識を得る割合も、現代の大学生の方が高かった。

3. 異性ととの交際

「あなたは家庭や大学以外の場所でも割合気楽に異性と話をしたり、交際することが出来ますか」との問いには、「大体、楽な気持ちでフランクに話せる162人(60.7%) (男103人(55.7%) 女59人(72.0%))」「できないこともないが、どうも堅苦しくなる92人(34.4%) (男74人(40.0%) 女18人(21.6%))」「ほとんど話すことが出来ない13人(4.9%) (男8人(4.3%) 女5人(6.1%))」との回答を得た(有効回答数267(男185女82))。

「30年前調査」では、「大体、楽な気持ちでフランクに話せる男47.6%女57.5%」「できないこともないが、どうも堅苦しくなる男44.6%女36.1%」「ほとんど話すことが出来ない男7.6%女55.8%」だった。現代大学生は30年前に比べて、気楽に異性と話をしたり交際したりしているようだ。

「あなたは特定の異性と特に親しく交際したことがありますか」との問いには、「交際したことがある、またはしている219人(82.6%) (男152人(83.1%) 女67人(81.7%))」「交際したことがない。できたら交際したい38人(14.3%) (男25人(13.7%) 女13人(15.9%))」「交際しないほうがよいと考えて、していない8人(3.0%) (男6人(3.3%) 女2人(2.4%))」との回答を得た(有効回答数265(男183女82))。

「30年前調査」の同じ質問の回答は「交際したことがある、またはしている男66.9%女71.6%」「交際したことがない。できたら交際したい男29.6%女25.4%」「交際しないほうがよいと考えて、していない男3.4%女3.0%」だった。30年前よりも異性との交際が活発に行われていることがわかる。

前の質問で「交際したことがある、またはしている」と回答した者に「どの程度の交際ですか」とたずねたところ、「恋愛の対象として159人(72.9%) (男108人(70.6%) 女51人(78.5%))」「話し相手として20人(9.2%) (男18人(11.8%) 女2人(3.1%))」「共通の趣味、特技の相手として6人(2.8%) (男5人(3.3%) 女1人(1.5%))」「プラトニック・ラブの相手として6人(2.8%) (男6人(3.9%) 女0人)」「将来の結婚相手として27人(12.4%) (男16人(10.5%) 女11人(16.9%))」との回答を得た(有効回答数218(男153女65))。

同じ質問に対する「30年前調査」の結果は、「恋愛の対象として男44.9%女36.6%」「話し相手として男20.7%女28.7%」「共通の趣味、特技の相手として男8.4%女10.4%」「プラトニック・ラブの相手として男18.3%女13.2%」「将来の結婚相手として男7.7%女11.1%」であった。

30年前に比して、現代大学生は、話し相手や趣味、特技の相手としてではなく、恋愛の対象として異性と交際していることがわかる。先の質問に通じるが、現代大学生の方が異性との交際に積極的だということを示しているといえよう。

Ⅵ. 男子大学生のもつ女性の身体観

では、男子大学生はどのような女性を理想としているのだろうか。現代男子大学生への調査と「30年前調査」の結果をみてみたい。

1. 女性の身体のどこに女らしさを感じるか

「女性の身体のどの部分にいちばん女らしさを感じますか」との問いでは「長い髪の毛32人(19.5%)」「端正な顔立ち45人(27.4%)」「首すじ7人(4.3%)」「高い鼻1人(0.6%)」「分厚い唇0人」「ほっそりとした肩10人(6.1%)」「豊かな胸35人(21.3%)」「引き締まったウエスト4人(2.4%)」「豊かな腰7人(4.3%)」「細いふくらはぎ9人(5.5%)」「足首1人(0.6%)」「その他13人(7.9%)」(有効回答数164)だった。

「30年前調査」では「長い髪の毛12.2%」「端正な顔立ち18.2%」「首すじ7.7%」「高い鼻0%」「分厚い唇0.4%」「ほっそりとした肩

8.5%」「豊かな胸 23.4%」「引き締まったウエスト 9.1%」「豊かな腰 7.8%」「細いふくらはぎ 3.7%」「足首 4.4%」「その他 3.0%」との結果だった。

現代も 30 年前も「女性の胸」や「長い髪の毛」に女らしさを感じている。しかし現代男子学生の方が、30 年前に比べ「顔立ち」に女らしさをより感じている。

また「女性のどういう体型にあこがれますか」との問いでは、「全身が痩せていて、身長が高い体型（細身型）82 人（44.8%）」「身体全体としての均整のとれた体型（筋肉質型）79 人（43.2%）」「全体として丸々とした感じのする脂肪型の体型（肥満型）9 人（4.9%）」「わからない 13 人（7.1%）」（有効回答数 183）という結果だった。

「30 年前調査」の同じ質問では、「全身が痩せていて、身長が高い体型（細身型）5.9%」「身体全体としての均整のとれた体型（筋肉質型）84.0%」「全体として丸々とした感じのする脂肪型の体型（肥満型）7.7%」「その他 1.8%」だった。現代男子大学生は 30 年目に比べて、細身の女性を理想としていることがよくわかる。

2. 理想的な女性の気質、結婚相手の基準

「自分の求める理想的女性像としてどういう特性・気質を求めますか」という質問には「責任感がある 79 人（43.2%）」「教養がある 110 人（60.1%）」「頭脳明晰 26 人（14.2%）」「強靱な意志 21 人（11.5%）」「正義感 33 人（18.0%）」「行動的なバイタリティ 42 人（23.0%）」「明朗さ 40（21.9 %）」「おおらかさ 98 人（53.6%）」「社交性 74 人（40.4%）」「その他 6 人（3.3%）」（複数回答 有効回答数 183）だった。

同じ質問に対する「30 年前調査」の結果は、「責任感がある 3.3%」「教養がある 3.6%」「頭脳明晰 2.1%」「強靱な意志 1.4%」「正義感 1.1%」「行動的なバイタリティ 3.8%」「明朗さ 50.2%」「おおらかさ 22.8%」「社交性 4.1%」「その他 6.1%」だった。回答の仕方が複数回答（現代大学生）と単一回答（「30 年前調査」）であり、単純比較はできないが、「30 年前調査」では「明朗

さ」「おおらかさ」が理想的女性に求める気質であったが、現代男子大学生では、「教養」「おおらかさ」「責任感」「社交性」を持つ女性を理想としているようである。女性に求める気質にも変化がみられる。

「結婚相手を選ぶ場合、あなたは何を最も適切な基準にしますか」という問いでは、「フィーリングや気質がぴったり合うこと 125 人（73.1%）」「趣味や特技が共通すること 12 人（7.0%）」「体型やスタイルが良いこと 4 人（2.3%）」「教養があり、知性的であること 18 人（10.5%）」「経済的に頼れること 2 人（1.2%）」「わからない 5 人（2.9%）」「その他 5 人（2.9%）」（有効回答数 171）との回答だった。

同じ質問に対する「30 年前調査」の結果は、「フィーリングや気質がぴったり合うこと 76.3%」「趣味や特技が共通すること 2.6%」「体型やスタイルが良いこと 4.6%」「教養があり、知性的であること 7.6%」「経済的に頼れること 4.2%」「その他 3.9%」であった。30 年前も現代も結婚相手には「フィーリングや気質がぴったり合うこと」を重視している。

Ⅶ 女子大学生のもつ男性の身体観

つぎに、女子大学生がどのような男性を理想としているのか、現代女子大学生への調査と「30 年前調査」の結果からみてみたい。

1. 男性の身体のどこに男らしさを感じるか

「男性の身体のどの部分にいちばん男らしさを感じますか」との問いでは、「短い髪の毛 6 人（8.2%）」「きりっとした顔立ち 1 人（1.4%）」「鋭い目 2 人（2.7%）」「高い鼻 1 人（1.4%）」「分厚い唇 0 人」「幅広い肩 18 人（24.7%）」「頑丈な胸 11 人（15.1%）」「引き締まった腹筋 19 人（26.0%）」「しっかりとした足腰 5 人（6.8%）」「全身にわたる毛深さ 0 人」「その他 10 人（13.7%）」（有効回答数 73）という結果だった。

「30 年前調査」では、「短い髪の毛 1.6%」「きりっとした顔立ち 22.0%」「鋭い目 5.2%」「高い鼻 0.5%」「分厚い唇 0.3%」「幅広い肩 32.7%」「頑丈な胸 25.1%」「引き締まった腹筋 19 人

3.9%」「しっかりとした足腰 2.6%」「全身にわたる毛深さ 0.5%」「その他 5.6%」という結果だった。

現代女子大学生の回答では「引き締まった腹筋」「幅広い肩」「頑丈な胸」に男らしさを感じるということであった。「30 年前調査」では「幅広い肩」「頑丈な胸」にくわえ「きりっとした顔立ち」が男らしさを感じる部分として挙げられている。現代女子大学生はほとんど「顔立ち」に男らしさを感じていないが「引き締まった腹筋」に男らしさを感じている。30 年間の変化だろう。

また「男性のどういう体型にあこがれますか」との問いには、「全身が痩せて、身長が高い体型（細身型）17 人（20%）」「肩幅が広く、胸郭の大きい筋肉質の体型（筋肉質）63 人（74.1%）」「全体として丸々とした感じのする脂肪質の体型（肥満型）5 人（5.9%）」という回答だった（有効回答数 85）。

「30 年前調査」では、「全身が痩せて、身長が高い体型（細身型）43.0%」「肩幅が広く、胸郭の大きい筋肉質の体型（筋肉質）44.5%」「全体として丸々とした感じのする脂肪質の体型（肥満型）1.0%」「わからない 11.5%」だった。現代女子大学生のほうが筋肉質の男性を理想としており、30 年前のほうが細身の男性を理想としていたようである。これは意外な結果ではないだろうか。

2. 理想的な男性の気質、結婚相手の基準

「自分の求める理想的男性像としてどういう特性・気質を求めますか」という質問には「責任感がある 63 人（75.0%）」「教養がある 42 人（50.0%）」「頭脳明晰 14 人（16.7%）」「強靱な意志 29 人（34.5%）」「正義感 38 人（45.2%）」「行動的なバイタリティ 26 人（31.0%）」「明朗さ 15（17.9%）」「おおらかさ 45 人（53.6%）」「社交性 39 人（46.4%）」「その他 9 人（10.7%）」（複数回答 有効回答数 84）だった。

「30 年前調査」では、「責任感がある 46.3%」「教養がある 12.1%」「頭脳明晰 5.0%」「強靱な意志 11.2%」「正義感 13.9%」「行動的なバイタリティ 24.1%」「明朗さ 24.6%」「おおらかさ

31.3%」「社交性 12.9%」「その他 4.5%」という結果だった。この質問も回答の仕方が複数回答（現代大学生）と単一回答（「30 年前調査」）であり、単純比較はできない。現代女子大学生は「責任感」「おおらかさ」「教養」「正義感」を重視している。「30 年前調査」では「責任感」「おおらかさ」「明朗さ」「行動的なバイタリティ」を持つ男性を理想としている。30 年の時を隔てても「責任感」「おおらかさ」は、女性からみた理想の男性の持つ特質として重視されていることがわかる。

さて、女子大学生には、化粧の動機についてもきいてみた。

「どういう動機で化粧をしますか」という質問には、「誰とはなく美しく見せるため 54 人（63.5%）」「自己陶醉の為 4 人（4.7%）」「異性に自分をアピールするため 3 人（3.5%）」「化粧はしない 24 人（28.2%）」という回答だった（有効回答数 85）。

同じ質問の「30 年前調査」の結果は、「誰とはなく美しく見せるため 74.6%」「自己陶醉の為 10.5%」「異性に自分をアピールするため 3.0%」「化粧はしない 9.7%」だった。

現代女子大学生も「30 年前調査」でも、「異性に自分をアピールするため」と、異性を意識して化粧している女子学生は意外に少数である。化粧は異性の為というよりは自分の為もしくはマナーと考えているのかもしれない。現代女子大学生のほうが「化粧をしない」割合が高かった。この理由は不明であるが、調査対象が T 大学の特定の学部の学生が多かった結果かもしれない。

「結婚相手を選ぶ場合、あなたは何を最も適切な基準にしますか」という質問をしたところ、「フィーリングや気質がぴったり合うこと 59 人（69.4%）」「趣味や特技が共通すること 4 人（4.7%）」「体型やスタイルが良いこと 0 人」「教養があり、知性的であること 7 人（8.2%）」「経済的に頼れること 6 人（7.0%）」「わからない 3 人（3.5%）」「その他 3 人（3.5%）」（有効回答数 85）との回答だった。

同じ質問に対する「30 年前調査」の結果は、「フィーリングや気質がぴったり合うこと

51.5%」「趣味や特技が共通すること 3.0%」「体型やスタイルが良いこと 0.5%」「教養があり、知性的であること 10.8%」「経済的に頼れること 27.6%」「わからない 6.6%」であった。30 年前も現代も男性同様、結婚相手には「フィーリングや気質がぴったり合うこと」を重視している。また、現代女子大学生に比して、「30 年前調査」では「経済的に頼れること」も女性が結婚相手を大きな基準となっていたようだ。「30 年前調査」が実施されたのは日本がバブル景気に沸く前、また、いわゆる男女雇用機会均等法（1985 年改正）前である。このような社会状況がその背景にあるのかもしれない。不況といわれている現代であるが、女性の社会進出が進んだ結果、結婚相手に「経済的に頼れること」をあまり望まなくなったのかもしれない。結婚に対する価値観の変化がうかがえる。

VIII むすび

本稿では、現代大学生の身体観を臓器移植・身体装飾・性への意識などの視点から明らかにすることを試みた。

臓器移植への関心は、内閣府の調査よりも低いと考えられたが、脳死判定後、心臓停止後の臓器提供についての本人の意思は、「提供したい」という回答が大幅に「提供したくない」を上回っており、脳死判定後、心臓停止後の臓器提供に肯定的な考えを持っていることがわかる。

染髪については 92.6%、ピアスについては 84.4%、Tattoo については 50.4%の学生が肯定的な意見を持っていることが分かった。これらの身体装飾について、「似合っていればいい」と考える学生は、染髪では 71.9%、ピアスでは 42.8%、Tattoo では 18.5%であった。また「自分の体だから何をしてもいい」と考える学生は、染髪では 20.0%、ピアスでは 15.6%、Tattoo では 10.0%。「親からいただいた身体に手を加えるべきではない」と考える学生は、染髪では 2.2%、ピアスでは 8.6%、Tattoo では 13.7%だった。染髪、ピアス、Tattoo などの身体装飾について、過半数が肯定的な意見を持っているが、身体に対する負荷によって、考えが変わっていることがわ

かる。

性への関心は現代大学生のほうが「30 年前調査」に比して若干低いようである。性的なことに関心を持つようになったのは男性で平均 12.8 歳、女性平均 14.2 歳であり、12 歳から 15 歳ごろに性的なことに関心を持つようになることが多いようである。性的なことに関する情報は、おもに「友人・先輩」から入手しており、現代では「インターネット」も重要な情報源となっている。

また、現代大学生は「30 年前調査」に比して異性との交際経験がある学生の割合が高く、異性との交際に積極的であることがわかる。

現代男子大学生が女らしさを感じる身体部位は「顔立ち」「豊かな胸」「長い髪」であり、「30 年前調査」と同じ部位であるが、現代大学生の方がより「顔立ち」に女らしさを感じている。現代女子大学生が男らしさを感じる身体部位は「引き締まった腹筋」「幅広い肩」「頑丈な胸」であり、「30 年前調査」では、「幅広い肩」「頑丈な胸」「顔立ち」であった。現代女子大学生は「顔立ち」に男らしさを感じていないが「腹筋」には男らしさを感じている。一方、現代男子大学生は女性の「顔立ち」に女らしさを感じているのは、理想とする女性像の変化であろうか。

さらに、現代男子大学生は「30 年前調査」よりも細身の女性にあこがれている傾向があり、現代女子大学生は筋肉質な男性にあこがれる傾向があることが明らかになった。

現代男子大学生が理想とする女性に求める気質は「教養」「おおらかさ」「責任感」「社交性」であり、現代女子大学生が理想とする男性に求める気質は「責任感」「おおらかさ」「教養」「正義感」であった。「30 年前調査」ではそれぞれ「明朗さ」「おおらかさ」「責任感」「おおらかさ」「明朗さ」「行動的なバイタリティ」であった。

結婚相手に求めることは、現代大学生も「30 年前調査」も男性の場合「フィーリングや気質がぴったり合うこと」が最重視されている。女性の場合も「フィーリングや気質がぴったり合うこと」が重視されているが「30 年前調査」では「経済的に頼れること」も重視されていた。この 30 年間の社会の変化の反映だろう。

最後に、本調査の限界と今後の課題についてふれておきたい。本調査は、T大学の学生で調査者の授業を受講している学生を対象に行った。そのため、対象が特定の学部の学生に偏ってしまった。また「30年前調査」との比較を可能にするために同じ質問を実施した。結果、現代大学生にはわかりにくい選択肢もあったようである。

本調査では、調査対象者の偏り、質問紙の内容、単純集計のみの統計処理等の限界があるとはいえ、現代大学生の身体観を臓器移植・身体装飾・性への意識等から明らかにしようとした点では意義があると考えている。今後は質問紙の内容の精査、調査対象者を拡大することで、現代大学生の身体観をより多様な角度から、具体的に明らかにしていきたい。

本研究は東海大学体育学部研究教育補助金の助成を受けたものである。

注

- 1) ブレードランナーとの異名を持つオスカー・ピストリウス（南アフリカ共和国）は、両足義肢を使用しながら、ロンドンオリンピックに出場した（パラリンピックにも出場）。彼の義肢が失った身体機能の向上・維持のための道具ではなく、彼の身体の一部として認められたと考えてよいのではないだろうか。とはいえ彼のオリンピック出場は炭素繊維製の競技用義肢がなければ実現しなかった。

さらにロンドンパラリンピックでは「義肢の長さ」が問題になったことも記憶に新しい。このようにスポーツ用具の影響は大きい。

- 2) どこからどこまでが自分の身体だと決定することが難しいくらい、現代を生きる我々は生身の身体の外側に自身の身体同然の機能を持つ道具を保有している。例えばコンタクトレンズ（メガネ）。視力の弱いに人にとっては身体の一部である。が、生身の身体から取り外し可能な道具でもある。

- 3) 松浪健四郎、荒木祐治：『身体観の研究－美しい身体と健康－』、専修大学出版局、1985年。この著書の中に「現代女子学生の持つ男性の身

体観」「現代男子大学生のもつ女性の身体観」の二つの論文が所収されている。本研究は、これらの研究を引き継ぐものである。なお『身体観の研究』の出版は1985年であるが、調査はそれ以前に行われている。「現代男子大学生のもつ女性の身体観」に関する調査は昭和56（1981）年に実施された。

- 4) 本調査は東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会の承認のもとで行われた（承認番号11119）。
- 5) ちなみに文部科学省の調査によると、平成22（2010）年の19歳の男子大学生の平均身長は172.27 cm、平均体重は63.8 kg、19歳の女子大学生の平均身長は158.74 cm、平均体重は51.19 kgである（文部科学省 体力・運動能力調査（平成22年度 2011年10月11日公表））。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001030953&cycocode=0>（2012年7月26日アクセス）
- 6) 日本臓器移植ネットワーク HP <http://www.jotnw.or.jp/datafile/index.html>（2012年8月17日アクセス）
- 7) アステラス製薬 HP <http://www.astellas.com/jp/health/healthcare/transplant/index.html>（2012年8月17日アクセス）
- 8) 高度医療においては臓器移植という生身の身体の外側（他の人）から身体の一部（臓器）を受け取り、様々な医薬品の力を借りて身体機能を維持・向上する行為が行われているが、スポーツの現場では、生身の身体の外側から薬物等を取り入れて身体機能を維持・向上する行為はドーピングとして厳しく取り締まられている。
- 9) 日本臓器移植ネットワーク HP <http://www.jotnw.or.jp/studying/29.html>（2012年8月17日アクセス）
- 10) 内閣府の調査は、全国の20歳以上3000人を対象に行った。有効回収数は1770。そのうち20～29歳の男は72人、女は89人だった。調査方法が違うため直接比較は難しいが、内閣府の数字は参考となろう。
- 11) 総務省統計局 HP <http://www.stat.go.jp/info/today/009.htm>（2012年8月17日アクセス）

- 12) 毎日 jp. <http://mainichi.jp/select/news/20120606k0000m040062000c.html> (2012 年 8 月 17 日 アクセス)